

アカハライモリ渥美種族 *Cynops pyrrogaster* (Boie) (Atsumi Race)

【選定理由】

本種族は Sawada (1963a) が整理したアカハライモリの地方種族の 1 つで、形態的、行動学的特徴に独自性が認められたが、当初発見された渥美半島では絶滅した。その後、知多半島で再発見された (Shimada et al., 2016) が、知多においても既知産地の多くが消失しており、絶滅の危険性はきわめて高い。



知多半島, 2014 年 7 月 11 日, 島田知彦 撮影

【形態】

体色は全体的に他地域のイモリより明るく、背面は茶褐色、腹面はオレンジ色から黄色。背中線と背側線に沿って明色のラインを持つ。他地域のイモリと異なり、雄は一年を通じて婚姻色を呈さない。全長は雄で 90 mm 前後、雌で 100 mm 前後であり、中部地方産のアカハライモリとしては最も体サイズの小さい集団に属する。

【分布の概要】

日本固有種。種としての分布は本州、四国、九州とその周辺の一部島嶼。種族としての分布は、本県の渥美、知多半島に限定されていたと推定される。渥美半島では旧福江町や黒河湿地の記録がある (島田, 2017) が、同半島の集団は既に絶滅した。知多半島では、知多市、東海市以南に生息していた (高津, 1999)。豊明市及び豊田市の一部の集団を本種族に含めるとする意見もある (高津, 2000) が、これについては詳細な検討が必要である。

【生息地の環境／生態的特性】

既知の生息地の多くは丘陵地の湧水湿地であった。知多半島の 1 地点では、成体は 5 月から 9 月にかけて水中に見られ、11 月には付近のミズゴケの下で越冬しているのが確認された。産卵は 4 月下旬から 6 月上旬にかけて行われ、幼生は 9 月まで見られる。他地域のイモリに比べ隠匿的な傾向が強く、求愛行動も夜間に行うとされる (Sawada, 1963b)。

【現在の生息状況／減少の要因】

文献上確認できる既知産地はすべて消失しており、2019 年現在確実に現存している個体群は 1 地点のみである。減少の要因としては、宅地開発や圃場整備による生息環境自体の消失、耕作放棄による生息地の荒廃、アメリカザリガニ等の外来生物による捕食などが挙げられる。

【保全上の留意点】

繁殖環境となる湧水湿地の保全が必須であるが、非繁殖期や幼体の生活場所として、周囲の森林環境も保全する必要がある。また、本種は飼育動物として需要が高いことから、採集圧の増大にも注意する必要がある。

【特記事項】

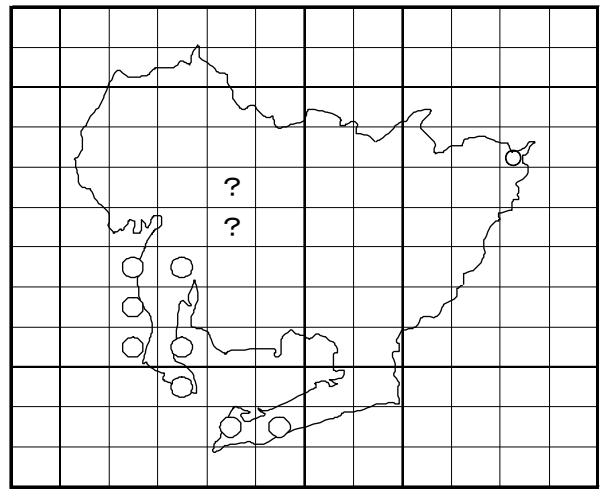
本種族は県条例に基づく指定希少野生動植物種に指定されている。

【引用文献】

- Sawada, S., 1963a. Studies on the local races of the Japanese newt, *Triturus pyrrogaster* Boie, I. Morphological characters. Jour Sci. Hiroshima Univ., Ser. B, Div. 1 21: 135-165.
Sawada, S., 1963b. Studies on the local races of the Japanese newt, *Triturus pyrrogaster* Boie, II. Sexual isolation mechanisms. Jour Sci. Hiroshima Univ., Ser. B, Div. 1 21: 167-180.
T. Shimada, S. Maeda, and M. Sakakibara, 2016. A morphological study of *Cynops pyrrogaster* from the Chita Peninsula: Rediscovery of the "Extinct" Atsumi Race endemic to peninsular regions of Aichi Prefecture, Central Japan. Current Herpetology 35(1): 38-52.
島田知彦, 2017. 愛知教育大学に収蔵されていた明治年間のアカハライモリの標本一特に渥美種族と推定される個体について. 豊橋市自然史博物館研報 (27): 1-8.
高津英夫, 1999. 両生類の観察と保護 その 2. ほたる (13): 51-95.
高津英夫, 2000. 知多の生物の観察と保護 その 1. ほたる(14): 49-65.

県内分布図

(2001 年以降の確認地域は非表示とした)



(島田知彦)